

企画名： 沖縄・球美の里 第75次母子保養

団体名： 認定特定非営利活動法人 沖縄・球美の里

1. 報告要旨

沖縄・球美の里は、2012年7月の開所以来、2018年月3月末現在で、3,788名(子ども3,032名、保護者756名)の保養者を受け入れてきました。第75回目となる保養は5月20日から5月29日の9泊10日、未就学児を中心に、子ども24名、付き添いの保護者10名、計34名が参加しました。

島内のイベントが盛りだくさんの時期で、お天気にも恵まれ、たくさん外に出かけました。地元の方のご厚意でヨットレース用の大きなヨットに乗せてもらいました。舵も握って、気分は船長！大冒険に子どもたちも大喜びでした。

久米島の豊かな自然の中で、放射能を気にすることなく、海に入ったり、裸足になり芝生の上や岩山で遊んだりできました。比屋定バンタ展望台やイービーチを訪れ、初めて海に入った子もいました。また、磯の生き物観察やホテル館見学で久米島の生き物たちにたくさん触れることができました。

食事も放射能の心配がない食材で、島のお母さんたちの愛情たっぷりの沖縄料理です。例えばサーターアンダーギーなどの手作りおやつや食事はジュシー(沖縄風炊き込みご飯)、パパイヤのサラダ、空心菜の和え物、ゆし豆腐など、最後のお昼には久米島産の車エビなどを使ったバーベキューを食べました。

甲状腺検診は、藤田操先生が担当しました。震災後の2012年4月から福島県平田村で4年間病院で勤務された後、2016年4月からは久米島の病院で勤務されています(※現在たらちねクリニック院長)。保養8日目に希望者に実施しました。検診結果は画像を含めて保護者に渡しています。

久米島町には町ぐるみで保養者を受け入れ、交流をいただいています。シーサーづくりや、手話サークル「くめしゅわ」の手話や、子育て支援サークル「にじのひろば」との交流会、民謡グループ「なんくるさんしん」の演奏を楽しみました。久米島高校の生徒も期間中ボランティアとして参加、町営塾「久米島学習センター」からも、ボランティアさんが来てくれました。この他、月一回の直売市に行ったり、老人クラブの方々の展示を見に行ったり、JAのお祭りにも行きました。近隣の海洋深層水発電所の方から、野菜収穫体験のお誘いを受け、新鮮な野菜を頂いたことも。この他、タイ人水彩画家タウン・ワットウーヤさんがワークショップを開いてくださいました。このように、大変もりだくさんのプログラムとなりました。

毎日の保養の様子は球美の里のブログとSNSで発信しました。

※ブログ <http://kuminosato.blog.fc2.com/blog-entry-965.html>

2. 成果物

1. [球美の里ブログ](#)
2. [球美の里ホームページ](#)
3. [球美の里フェイスブック](#)
4. ニュースレター「[球美の里だより](#)」
5. インスタグラム: <https://www.instagram.com/kuminosato/>
6. 「Hello!球美の里」『FMくめじま』毎週金曜 12:30-13:00
7. 「福島原発事故で被災した子供向け通年保養施設 沖縄・球美の里向井理事長講演」『北海道新聞』(2017.7.15)
8. 「なぜNPO活動を始めたのですか？ 子どもたちの笑顔が活動の原動力」『新宿NPO』(2017.10)
9. 「福島とチェルノブイリの子どもたちの夏」『社会新報』(2017.11.29)

10. 「Fukushima Mothers」『NHK WORLD TV NHK WORLD PRIME』(2017.12.26)0:30-0:55

11. [「母たちの祈り～フクシマとチェルノブイリ～」](#)『NHK BS1』(2017.12.29)午後9時00分(50分)